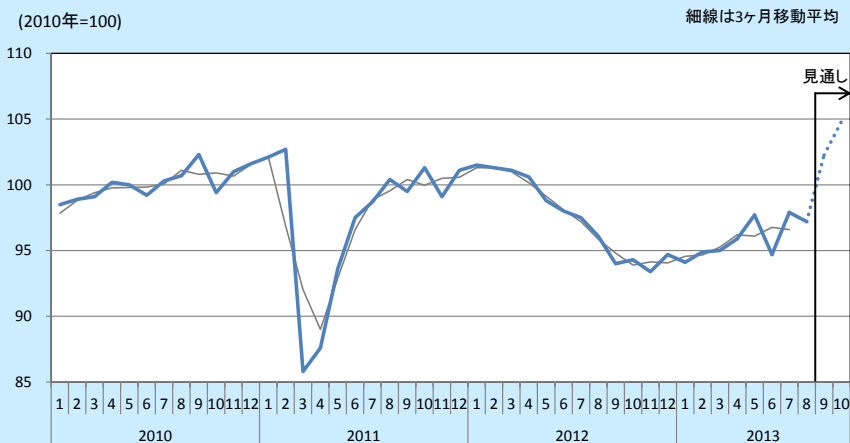


日本：鉱工業生産指数（2013年8月）

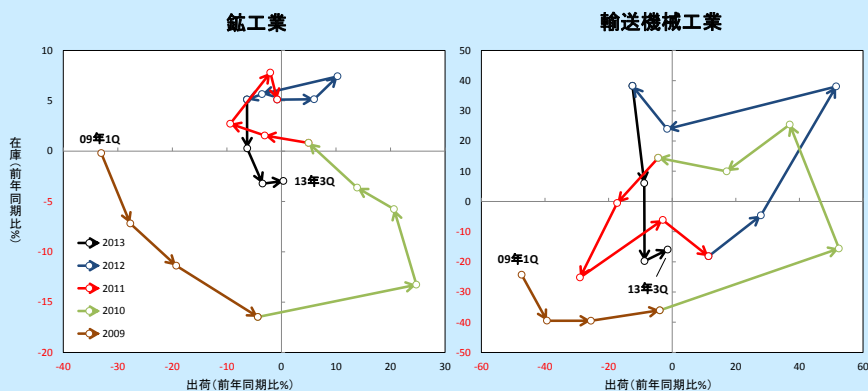
MRI Daily Economic Points
September 30, 2013

図表 鉱工業生産指数（季調済）



資料：経済産業省「鉱工業指数」

図表 在庫循環図



注：13年3Qは、13年7・8月の平均値の前年同月比

資料：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

今回の結果

- 8月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比▲0.7%と2ヶ月振りに低下。一進一退の状況が続いている。
- 業種別にみると、15業種中、上昇が7業種、横ばいが1業種、低下が7業種と、業種ごとに様相が異なった。低下に寄与したのは、石油・石炭製品工業(前月比▲3.1%)、化学工業(除. 医薬品)(同▲2.8%)など。一方、上昇に寄与した業種は、パルプ・紙・紙加工品工業(同+2.0%)、金属製品工業(同+1.3%)などであった。
- 生産予測調査は、9月は前月比+5.2%、10月は同+2.5%の増産が見込まれている。9月は、紙・パルプ工業以外のすべての業種で増産が見込まれている。特に、はん用・生産用・業務用機械工業では9月：同+11.0%、10月：同+12.0%の大幅な増産が見込まれている。

基調判断

- 鉱工業生産指数は、緩やかながらも回復基調にある。

今後の流れ

- 8月の鉱工業生産指数は、再び低下となったが、9月と10月の生産予測調査では、大幅な増産が見込まれており、予測調査どおりとなれば、10月には、2008年10月以来の水準にまで鉱工業生産が回復することとなる。
- 今後の鉱工業生産指数は、在庫調整の進展もあり、基本的には回復基調を維持するであろう。だが、海外経済の減速による、輸出の伸び悩みには、依然、注意が必要である。